

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29208 防災のためのびわ湖と森林の活用



開催日：平成29年10月28日(日)

実施機関：滋賀大学

(実施場所) (教育学部美技職棟1階木材加工室)

実施代表者： 岳野公人

(所属・職名) (教育学部・教授)

受講生： 小・中学生11名(欠席5名)

関連URL： <http://www.shiga-u.ac.jp/>

【実施内容】

1. プログラムにおいて留意、工夫した点

- ・午後からの各種体験を屋外で予定していたため、雨天時でも臨機応変に対応できるように屋内用の体験も準備した。
- ・工具や火を扱うため、軍手、実地補助など安全教育、管理や万が一の際の連絡先などを徹底した。
- ・受講生の意欲や気持ちを高めるために、ワークショップの数を多く準備した。火おこし体験、火消し体験、各種発電体験、段ボールベッド、防災シミュレーションなど。
- ・準備段階で、学生スタッフに対する実施シミュレーションを数度実施し、リハーサルも行った。アイスブレイクや各種ワークショップでは、受講生と学生がよく親睦が取れていた。

2. 当日のスケジュール

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 9:30～10:00 | 受付(教育学部 研究棟棟1F ロビー) |
| 10:00～10:20 | 開講式(挨拶, オリエンテーション, スタッフ紹介) |
| 10:20～10:40 | 科研費の説明と本事業の紹介 |
| 10:40～11:00 | アイスブレイキング(自己紹介とスタッフの交流) |
| 11:00～11:10 | 休憩 |
| 11:10～12:10 | 講義及び薪割り体験(途中適宜休憩) |
| 12:10～13:10 | 昼食及び交流会(教員, スタッフとの交流) |
| 13:10～15:10 | 実習「火おこしと発電」(途中適宜休憩) |
| 15:10～15:50 | 実習「燻製作り」とクッキータイム |
| 15:50～16:10 | ふりかえりと発表 |
| 16:10～16:30 | 修了式(アンケート記入, 未来の博士号授与) |
| 16:30 | 終了・解散 |

3. 実施の様子

このプログラムは、前半の講義、後半の体験的なワークショップに区分されている。琵琶湖および森林環境と防災の問題を認識する段階とその解決のために行動を起こす段階に対応するように準備した。

プログラムの内容は、前半に滋賀県特有の自然環境を背景に森林や琵琶湖の抱える問題を取り上げた。この問題は、人や動物などの自然にどのような影響をもたらすのか、その解決はどのようにできるのか考える時間をもってもらった。後半は、火おこし、発電、段ボールベットづくりなどのワークショップを実施し、振り返りの時間では受講生は進んで意見を発表しており、何らかの活動を通して森林や琵琶湖の問題について取り組んでくれたと期待している。

以下に、各プログラムの写真を掲載する。



1. 防災の講義

2. 火の扱い方の説明

3. 火おこし

4. 火の維持



5. 火力発電

6. 火消し

7. 手回し発電

8. 段ボールベット

4. 事務局との協力体制

代表者の所属ならびにプログラム実施場所が、所属機関の事務局から離れているため研究支援課担当者との連絡はメールなどを多用し、必要に応じて対面の打ち合わせを実施した。委託費の管理と経費処理、チラシの郵送、申し込み受付名簿管理などは研究支援課に協力をしていただき、代表者はプログラムの実施準備に専念することができた。また、当日の受付、事務手続き、弁当の手配なども手際よく実施していただいた。

5. 広報活動

JSPSのHPの他、滋賀大学HPにおいて実施内容を紹介した、また、チラシと依頼文を作成し、滋賀県各教育委員会へ配布した。

6. 安全配慮

- ・火を扱うことになるため近寄りすぎないことや燃えそうな衣類を身につけないことに留意した。
- ・万が一大型機械に触れ、けがをしないようにあらかじめ部屋の隅に寄せ電源を切っておいた。
- ・受講生とスタッフは傷害保険に加入した。
- ・実施前のオリエンテーションにおいて、ものづくりやワークショップに関する安全教育を実施した。
- ・実施前にスタッフとシミュレーションを繰り返し、安全管理につとめた。例えば、機械の固定、不要な工具、材料の撤去、動線の確保など。

7. 今後の発展性と課題

代表者、滋賀大学も含めて今回が3度目の事業開催となり、開催までの準備は初回と比べ効率よくできたが、課題もある。今回の課題は、天候と当日の欠席者についてである。講義は屋内で実施したので、特に問題はなかったが、午後のワークショップはすべて屋外で予定していたため、当日の天候によって実施内容を変更しなければならなかった。しかし、今回は防災がテーマであったために、台風との関連でワークショップを実施できたことは有意義であった。もう1点は、当日の欠席者が今回は、4名であったことで、ワークショップやグループ編成にやや対応が遅れてしまった。より精度の高いプランを立てる必要性を認識した。良かった点は、これまでよりも、事前の申し込みが多かったことである。募集した15名を超えて、16名で募集を打ち切りにした。これは、滋賀大学におけるひらめき事業の継続の結果であると推測できる。

今後も、このようなワークショップの機会を経験することで、スタッフの技能も向上してより発展的な事業開催につながると期待できる。所属機関は教育学部であり、このような事業をととして学生が教育者としての資質を身につけることも非常に有意義なことであると感じた。

【実施分担者】

岳野 公人(教育学部・教授)

宮本 結佳(教育学部・准教授)

【実施協力者】 4 名

【事務担当者】

土川 博司 (学術国際課 研究支援係), 岡島傑(教育学部 会計係)